

議会が県に要望

栗原保健所の継続を求める

議会は11月16日、議員23人で県庁に赴き、「栗原保健所の継続を求める」要望書を佐野好昭副知事に手渡ししました。副知事は、新型コロナウイルス感染症の対応や食品営業などの許可申請の受け付けは、現行の「栗原保健所」が「支所」になっても対応するとして、組織再編に理解を求めました。

県は当初、「保健所の再編は、人員を集約し、柔軟で機動的な対応を強化するため。」として、令和3年

度に栗原保健所を大崎保健所に統合し、栗原保健所を支所にする計画でした。しかし、新型コロナウイルスの対応もあり、1年間延期するとしています。

危機管理の対応遅れ心配

保健所は感染症対策のみならず、精神保健対策や難病対策、地域医療の確保などを担っており、地域住民にとって非常に重要な機関となっています。人的配置が大崎保健所に集中した場合、保健所からの指導や助言にタイムラグ（時間差）が生じることも予想され、感染症拡大や食中毒の発生など危機管理的業務の対応

佐野副知事に要望書を提出



栗原保健所の必要性を説明

の遅れが懸念されます。

これらのことから、地域の公衆衛生の中核機関として、今後も栗原保健所の継続を強く要望します。

これに対して、佐野副知事は、「一つの保健所で常にチームを組んだほうが専門性が高まり、技術継承もやりやすくなる」と統合に理解を求めました。

栗原保健所の統合は、1年延期されましたが、議会は引き続き継続を求める要望活動を行っていく考えです。

陳情

12月定例会に陳情8件提出されました。(敬称略)

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充、格差のない全国一律最賃制度の確立を求める政府に対する意見書採択の陳情書について

宮城県春闘共闘会議

代表幹事 高橋 正行

「安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書」採択を求める陳情書の提出について

ほか3件

ほか1件

宮城県医療労働組合連合会 執行委員長 中山 修

米軍基地負担の軽減及び日米地位協定の見直しに関する陳情

日米地位協定問題を考える宮城の会

責任者 佐藤 春治

女川原発再稼働を認める宮城県決議への反対表明を求める陳情書

浅利 志津子

表彰



鹿野 芳幸 議員

令和2年宮城県文化の日表彰において、多年にわたる議員活動を通じて、地方自治の確立と住民福祉の向上に尽力された功績により、宮城県知事から表彰されました。

議会の新型コロナ感染防止対策

新型コロナ感染の防止対策として、6月定例議会から発言者席へのアクリル板の設置、傍聴者の間隔の確保、議場の出入口を開放するなどの対策をとって議会を開いています。

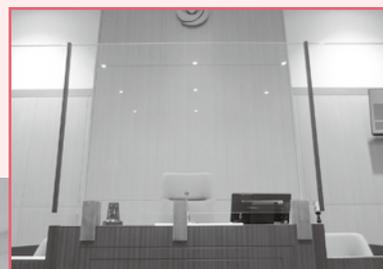


傍聴席

十分な間隔を確保するため、25席ある座席を2分の1の12席にしました。

議長席

アクリル板を設置



一般質問席

アクリル板を設置



議場（奥が議員席、手前が市長などの執行部席）

演壇（市長答弁など）

アクリル板を設置



委員会室

「議会だより」の編集委員会なども、十分な間隔を空けて会議をします。



議員控室

間隔を空けて、ジグザグに着席しています。議員全員協議会や朝の打ち合わせ、昼食にも利用します。

議員のコロナ感染時
ホームページで公表
議会は12月15日に開いた議員全員協議会で、議員が新型コロナウイルスに感染したと確認された場合、市のホームページで氏名を公表することを決めました。濃厚接触者の段階では公表はしません。

朝ご飯で農業を応援

脳の活動エネルギーであるブドウ糖は、体内に大量に貯蔵できません。だから「朝の脳はエネルギー不足」です。実際に朝食を取った場合、言葉や図形配置を思い出すまでの時間が短くなるという実験結果もあります。全国で朝食抜きの人は1日当たりざっと1000万人。欠食数を合計すると年間で延べ62億食に上るといいます。みんなが朝食、それもパンではなく、ご飯を食べれば、40%しかない食料自給率も上がるでしょう。主食用米の自給率は100%なのだから、1食3000円の支出があると計算すると、朝食の市場規模は約1兆8000億円になるといいます。体に良いばかりか不況対策にもなります。朝ご飯をしっかりと食べて、日本の農業を応援しましょう。



佐藤 光輝さん
(一迫)

私もひとこと



高橋 和恵さん
(瀬峰)

魅力のある栗原に

我が家は、私と主人の二人暮らしです。二人の息子は市外で生活しています。近所を見ても一人暮らし二人暮らしの家庭、空き家といった現状が近年多く見られます。都会を離れ、田舎に移住する人も、新聞やテレビなどのマスコミでよく耳にします。若者が都会に憧れるのは当たり前ですが、学校、就職などで栗原を離れても、また地元に戻ってきたくなるような魅力があれば、帰ってくると思います。子育て支援には力を入れて頂き充実しています。しかし、過疎化問題を始め、商店街農業後継者など、さまざまな課題がある今の時世ですが、より良い施策をもっとアピールして頂き、高齢者も安心して生活つづけるような栗原にしたいと思います。

あとがき

コロナ禍の多難な年が過ぎ、干支は丑です。ゆっくりじっくりと着実に歩みたいと思います。4月は栗原市長・市議会議員選挙。7月は、平和の祭典東京オリンピック・パラリンピック、10月までに衆議院議員選挙が行われます。栗原市のまちづくり、日本の進路を選択する重要な年となります。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を強化し、仕事や日常の暮らしを取り戻しましょう。これからも親しみの持てる紙面づくりに努めていきます。

発行責任者

佐藤 悟

広報編集調査特別委員会

- 委員長 三塚 東
- 副委員長 高橋 将
- 委員 高橋 幸
- 委員 澤邊 浩
- 委員 佐藤 範
- 委員 五十嵐 勇
- 委員 石川 正
- 委員 佐藤 悟
- 委員 佐藤 文
- 委員 佐藤 嘉
- 委員 佐々木 郎

